

# 旧態依然とした偏差値教育から脱却し それぞれの得意を伸ばす新しい進学校へ

校訓に「誠実」「信頼」「奉仕」を掲げる西武学園文理中学・高等学校は、高い知性と人間力を備えた、国際社会に貢献できる人材の育成をめざす共学の中高一貫校です。同校初の外国人校長であるマルケス ペドロ氏は、2023年4月の就任以来、偏差値教育からの脱却を訴え、さまざまな学校改革に取り組んでいます。日本の学校教育の課題や、詳しい改革内容について、マルケス校長と森上教育研究所代表の森上展安氏に語っていただきました。



森上教育研究所  
代表 森上 展安 氏

早稲田大学法学部卒業後、進学塾塾長などを経て、1988年に私立中・高や進学塾を対象とするコンサルティング・森上教育研究所を設立。ほぼ毎週、中学受験の保護者を対象に、著名講師陣による「わが子が伸びる親の“技”」(oya-skill.com)と冠したセミナーや動画を提供している。



西武学園文理中学・高等学校  
校長 マルケス ペドロ 先生

1985年、ブラジル・サンパウロ州生まれ。サンパウロ大学総合哲学文学人文科学部日本語日本文学専攻卒業。同大学言語教育センターで日本語講座の講師を務めた後、日本語教育研究やバイリンガリズムに関心を持ち、2010年来日。早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程に入学し、JSL児童のこぼれアイデンティティをテーマに研究を行う。卒業後は西武文理大学で8年間、外国人留学生の日本語教育や日本人学生の英語教育を担当。2023年4月から現職。

## AIの時代を生き抜くには 非認知能力の育成が重要

**森上** 以前から埼玉県内屈指の進学校として知られる貴校ですが、マルケス先生は、従来の知識伝達型教育や偏差値教育に疑問を呈し、さまざまな学校改革に取り組んでいらっしゃいます。その理由と背景について教えてください。

**マルケス** この30年間で、子どもたちを取り巻く環境は大きく変わりました。まず一つは「デジタル化」です。インターネットやAIが急速に進歩し、必要な情報が瞬時に手に入るようになりました。もう一つが「国際化」です。わたしのように、日本語を学び、日本人とともに働く在留外国人の数が急激に増えています。その一方で、この30年間でほとんど変わっていないのが日本の学校教育です。いまだに多くの学校が、座学を中心とした知識伝達型の授業を行っていますし、携帯電話の校内持ち込みや使用を制限するなど、インターネットやAIから子どもたちを遠ざけようとしています。わたしたちから見れば、それは「新割り学校」と同じです。電気という文明が発達しても「電気に慣れるのはよくない」「人間は火とともに進化してきたのだから、これからは火を使い続けよう」と言っていたかたくなに新割りを教え続けるような、時代錯誤的な教育と云ってもいいでしょう。

**森上** 「これからデジタル化社会がくる」「これからの国際化社会に向けて」というフレーズを耳にしますが、これらの新時代は「これから」ではなく「今」すでに始まっているものです。まずはこの現状

と正面から向き合い、インターネットやAIとの正しい付き合い方を考えること。多文化共生に必要な多様性を受け入れる価値観を身につけることが、今の学校教育に強く求められていると感じます。

**森上** 日本の学校教育への危機感が、改革の原動力となっているのですか。

**マルケス** AIの時代においては、これまで重視されていた知識伝達型教育、偏差値教育の価値は著しく下がっていきつつあります。もちろん、最低限の基礎学力は必要ですが、人間がどこまで知識や情報を頭詰めこんだところで、AIには勝てないからです。であれば、学校教育は、人間にしかできないこと、を見極め、そこを徹底的に磨くべきではないでしょうか。本校が、旧来の進学校モデルから脱却を図っているのも、テストの数や偏差値だけでは測れない、生徒の「非認知能力」を伸ばすことが、次世代を生かすうえで最も必要だと考えているからです。

## 生徒たちを本気にさせる 「ガチ・プロジェクト」を始動

**森上** 次に、具体的な学校改革の内容について教えてください。

**マルケス** 代表的な取り組みの一つに、中1から高3までの有志が自由に参加できる生徒プロジェクト、通称「ガチ・プロジェクト」が挙げられます。この特徴は、形式的な探究学習ではなく、企業や自治体の課題を生徒が責任を持って解決する、その名の通り「ガチ」な取り組みであること。生徒による主体的な課題解決を主眼とした「探究学習」「プロジェクト学習



中学2年生～希望者対象の約3週間のセブ島語学研修～  
例年学年の3割の生徒が参加



赤レンガ造りの中学校校舎～キャンパス内の所々にオブジェがあります



2024年4月～キャンパス内に完成した西武学園人工芝総合グラウンド

と呼ばれる教育手法については、この20～30年間にわたって、教育者の間でさまざまなメリット・デメリットが議論されてきました。なかでも、わたしが注目したのは「目的が形骸化しており、本気で取り組む生徒が少ない」という指摘です。そこで、生徒や教員の自己満足だけで終わらない、第三者を巻き込んだプロジェクトを実現したいと考えました。たとえば、プロのソフト開発者と一緒に簡単なゲームやアプリを製作・販売するもの、狭山市と共同で八口ワインイベントを企画し、地元の経済に貢献するものなど、合計10種類のプロジェクトが進行しています。

**森上** どのプロジェクトも、成功させるためには、生徒一人ひとりの能動的な働きが求められそうですね。

**マルケス** はい。生徒たちは非常に張り切って、本気で取り組んでくれています。なかには、保護者の方を巻き込んだ「校則見直しプロジェクト」もあります。以前までは「前髪が肩の下まで伸びてはいけない」「髪を染めてはいけない」など厳しい校則を設けていたのですが、今ではそれを見直し、生徒の判断に委ねることにしました。服装の決まりに限らず、学校の制度に不満があれば、声を上げて変えられる仕組みを整えたことで、以前に比べて生徒の笑顔が増えたように感じます。

**森上** 今後、この「ガチ・プロジェクト」をどのように発展させていく予定ですか。

**マルケス** 学校の近くにある柏原ニュータウンには、現役を引退したエンジニアやプログラマーなど、さまざまなスキルを持つ方々がお住まいです。今後は、そうした優れた人材の力を借りながら、「コミュニティ全体を盛り上げられるようなプロジェクト」を実現していきたいですね。

## 一人ひとりの個性を認める 多彩なクラスとキャリア教育

**森上** 高校では2学科7クラス制、中学では3クラス制と、生徒の進路希望に沿っ

た多彩なクラスを設定されていますね。

**マルケス** はい。中学入学段階から、海外大学を含む最難関国立大学や医学部への現役合格をめざす「アカデミックチャレンジクラス」、PBL(課題解決)型授業を通して難関大学はもちろん総合型・学校推薦型選抜での進路実現をめざす「クリエイティブクラス」、部活動や作品制作に力を入るとともに、クリエイティブクラス同様に推薦型選抜も利用しながら大学進学をめざす「スポーツ＆アートクラス」(2025年度から新設)の三つを設けています。

**森上** なかでも、PBL型授業をメインに据えた「クリエイティブクラス」の試みは非常に画期的ですね。

**マルケス** 中学に先駆けて、高校に「クリエイティブクラス」を設置したときは、「本当に生徒が集まるのか」と懐疑的な声も聞かれました。しかし、ふたを開けてみれば、アカデミックチャレンジクラスにも劣らぬ優秀な生徒が多く入学してくれました。そのなかには、高一時点で高校課程の数学をすべて履修し終えた生徒もいます。クリエイティブクラスには、そうした「吹きこぼれ」と呼ばれる生徒たちの受け皿としての役割もあるのです。

**森上** キャリア教育にも新しい試みを導入しているそうですね。

**マルケス** 子どもたちの適性を見極め、最適な進路を提案するには、学校の教員のほかにもう一人、プロの視点が必要だと考え、中学のすべての学年で、月に1回、外部のキャリアカウンセラーとの面談を取り入れていきます。第三者の立場からの冷静なアドバイスと、生徒の性格や特性をよく知る教員の意見の両面から、その子の「できること」「やりたいこと」を応援していきたいと思っています。

**森上** 生徒一人ひとりの個性がさらに磨かれていきそうですね。これから新しい進学校を実現していくうえで、どのような受験生に来てほしいとお考えですか。

**マルケス** 医師やエンジニアなど、明確な将来像を持っている生徒ももちろん大



今春からスタートした「ガチ・プロジェクト」～中高生と一緒に取り組む「商品開発」のガチプロジェクト

歓迎ですが、まだ、将来の進路が定まっていなくても、これまでにこころをこめてほしいと思います。近年、「自分の将来の夢が描けない」と悩む若者は少なくありません。それがまるで悪いことかのように学校側が急かしたり、責めたりすることで、ますます子どもたちは自分の適性を見失ってしまいます。その点、本校には、「ガチ・プロジェクト」をはじめとしたさまざまな学びにつながる出会いがあります。「自分の可能性を広げたい」と考える子どもたちにとっては、これ以上ない最適な環境だと自負しています。

**森上** それは非常に心強いですね。最後に、読者へのメッセージをお願いします。

**マルケス** 最近の子どもたちは、人格形成も完了していないうちから、絶えず実績が求められる、まるで疲弊した大人のように見えます。わたしたちがめざすのは、そのような子どもたちの救いになるような学校をつくることです。本校では、生徒にも教員にも「失敗を恐るな」「失敗するな」と話していません。失敗に寛容であることは、人間が成長する環境として最も大事な条件だからです。本校は、新しい時代を生き抜くために必要なスキルをバランスよく身につけられる場所です。たくさんのお受験生のチャレンジをお待ちしています。

Be the change! -自分の手で、未来を変える-  
西武学園文理中学・高等学校

中学校 学校説明会  
(事前予約制)

12/7(土)

※説明会開始時間・内容等の詳細はホームページにてご確認ください。

〒350-1336 埼玉県狭山市柏原新田311-1 TEL:04-2954-4080  
https://www.bunri-s.ed.jp/

